



徳島大学創立70周年 記念講演会

令和元年

11月3日 (日・祝)

13:00-14:50 (開場12:30)

場所 JRホテルクレメント徳島 4F
(徳島市寺島本町西1丁目61)

定員400名

参加者募集【入場無料】

ご参加には聴講券が必要です
(応募者多数の場合は抽選)

※講演会では未就学児の入場はご遠慮ください。



徳島大学大学院医歯薬学研究部 運動機能外科学 教授



アルピニスト

西良 浩一 氏

野口 健 氏

第1部
講演

13:05~

「“Beyond The TOKYO” 腰痛治療最前線 ~徳島からこの技術を全国に~」

第2部
講演

14:00~

「あきらめないこと、それが冒険だ」

座長：西良浩一

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 運動機能外科学 教授)

お申し込み方法

はがき、FAXまたはWEBで、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、電話番号を明記し、下記までお申してください。複数での参加を希望される場合は、参加される方の氏名、年齢、性別もご記入ください。

〒770-8572 徳島新聞社 企画推進部
「徳島大学創立70周年記念講演会」係
FAX:088-622-8875

WEB:「徳島新聞イベント」

(<https://www.topics.or.jp/ud/events>)を検索するか、二次元コードの指定フォームよりお申し込みください。ガラケー(従来型携帯電話)からの応募はできませんのでご注意ください。



●応募〆切

令和元年

10月17日(木) 必着

※聴講券または落選通知の発送は10月21日(月)

※お預かりした個人情報は厳重に管理し、徳島新聞社から送らせていただく各種お知らせ以外で第三者に提供・開示等は一切いたしません。



●お問い合わせ先

徳島新聞社 企画推進部
TEL 088-655-7407
(平日9:30~17:30)

●講演中のビデオ・写真撮影・録音は固くお断りします。

■主催 徳島大学

■共催 徳島新聞社



徳島大学創立70周年 記念講演会

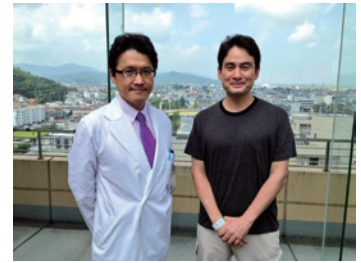


徳島大学マスコットキャラクター
「とくぼん」

人・地域をはぐくみ未来をつくる
— 徳島大学70 —

徳島大学が2019年11月2日に創立70周年を迎えることを記念して、記念講演会を開催します。

整形外科医そしてスポーツドクターとしてこれまでに数々のアスリートの治療に携わってきた西良浩一徳島大学教授と、西良教授の内視鏡による頸椎手術を受けられたアルピニスト野口健氏をお迎えし、ご講演いただきます。



▲2016年8月徳島大学病院にて。西良浩一教授(写真左)による内視鏡を使った頸椎手術を受けた野口健氏(写真右)。

講師紹介



徳島大学大学院医歯薬学研究部
運動機能外科学教授

西良 浩一 氏

- 1988年 徳島大学医学部卒業
- 1994年 徳島大学大学院修了(医学博士)
- 1995年 米国アイオワ大学留学(1997年帰国)
- 1999年 徳島大学講師
- 2003年 米国トレド大学留学(2005年帰国)
- 2006年 徳島大学講師復職
- 2010年 帝京大学溝口病院准教授
- 2013年 徳島大学運動機能外科学教授

専門分野／脊椎・脊髄外科、スポーツ医学
資格／日本整形外科学会専門医、
日本脊椎脊髄病学会技術指導医、
日本スポーツ協会公認スポーツドクター

“Beyond The TOKYO” 腰痛治療最前線 ～徳島からこの技術を全国に～

徳島県の共通コンセプト「vsTOKYO」。私も常にこの言葉を念頭に活動している。地方大学が教科書レベルの最高級医療を展開すると県民には大きい福音となる。

しかし、国内唯一のBeyond The TOKYOとなるためには、東京には無い教科書を超越する医療を提供する必要がある。徳島大学のBeyond The TOKYOは、1) 謎の腰痛は無い、2) アスリートの腰痛を100%以上の状態で復帰、3) 局所麻酔で高齢者の腰痛手術。この3点を展開した結果、手術症例の40%が県外からの受診となり、内訳は東京都からの受診が最も多い結果となった。

本講演では、徳島大学が取り組んでいる腰痛治療最前線(腰部脊椎管狭窄症を対象とした局所麻酔による全内視鏡手術(FED法)について詳しくお話ししたい。



©Ken Noguchi Office

アルピニスト

野口 健 氏

プロフィール

1973年アメリカ・ボストン生まれ。植村直己氏の著書「青春を山に賭けて」に感銘を受け、登山を始める。1999年エベレストへの登頂に成功し、7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立する。現在はエベレストや富士山の清掃登山、次世代の環境問題を担っていく人材育成などの活動を展開している。

2016年の熊本地震では「熊本地震テントプロジェクト」を立ち上げ、専門家からは「今後の被災地のモデルケースにすべき」との評価を得た。

あきらめないこと、それが冒険だ

停学、そして本との出会い。落ちこぼれが山に出会い、七大陸最高峰に挑戦する中で学んだことは。冒険の中で感じる生と死を交えながらお話しします。

【以下、野口健氏公式ブログより転載】

エベレスト挑戦中に雪崩に遭遇、生き埋め状態からなんとか脱出したが、雪崩を受けた衝撃から首がむち打ち症に。翌年から手の指先がしびれ、肩や肩甲骨周辺にマイナスのドライバーを差し込まれたかのような激痛に襲われた。「このままでは登山家としても終わってしまう」と焦るもリスクのある手術を決断できなかった。

そんな時に頸椎手術のスペシャリストである徳島大学病院の西良浩一先生との出会いがあった。「内視鏡による手術なら負担が少ない。野口さんにはまた山に登ってほしいです。任せてください。必ず成功させます!」と。暗闇の中に一点の光を見つけた。手術は無事に成功。トレーニングは日々同じことの繰り返し。成果がすぐに表れるわけではない。全ての努力が実るわけでもない。それでもやり続けることに意味がある。つくづく感じることもある。人生、全ての出来事には意味があるのだと。